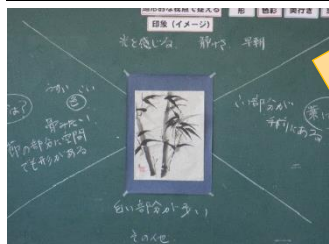


図工美術実技研修講座 ～水墨画～

10月20日(火)に初山別村立初山別中学校の工藤 臣教頭を講師にお招きし、水墨画の実技指導を行っていただきました。今回は、会場での実技指導に加え、Zoomでも配信を行い、管内全域の先生方に参加していただくことができました。



①鑑賞からイメージを膨らませる



思考ツール“X チャート”を用い、「全体」「幹」「葉」「その他」の4つの視点で気付いたことをまとめ、作品づくりのイメージを膨らませる。

②道具を準備する



3種類の墨(淡墨, 中墨, 濃墨)を使って絵を描くため、紙コップを3つ用意。すずり、筆、薄めるための水も準備する。

③墨を3種類準備する



濃墨・・・墨汁そのままの濃さ。
中墨・・・紙コップに水を1/3入れ、筆の先に濃墨を付けて、少しずつ足していく。
淡墨・・・紙コップに水を1/3入れ、筆の先に中墨を付けて、少しずつ足していく。

④『片隈』の技法で幹を描く



【片隈(かたぐま)とは】
・片側を濃く描くことで、ものの立体感や奥行きが表現できる技法のこと。
①淡墨をしっかりと筆全体に付ける。
②濃墨を筆の先(1cm位)に付ける。
③下から上に筆を運んで描く。

⑤『内脈』の技法で葉を描く



【内脈(うちみやく)とは】
・中心に脈のような線を入れることで、葉脈や対象物の色の変化を濃淡で表現できる技法のこと。
①筆に淡墨を含ませ、筆先を平筆のように平らにする。
②平らにした筆先の両側に中墨を付ける。
③中墨がついている面を上にして、筆先から入れる。

⑥枝や節を描き足していく



☆小枝や節を描き足していくとさらによくなる。
☆習字ではないので、水墨画は二度描きするのもOK! 濃淡を描き加えていくとさらに作品がよくなる場合もある。
☆消しゴムハンコで作った落款印を押し、台紙に貼ると作品として見栄えもよくなる。

【参加者の声】(抜粋)

○水墨画のいろいろな手法を教えていただき、夢中になって作品作りに取り組みました。実際にやってみると難しいところもありましたが、作品を見る視点などはとても参考になりました。

○Xチャートでの鑑賞があることで、水墨画のよさを意識して取り組みました。

○墨の付け方や描き方を具体的に教えていただけたので楽しみながら描くことができました。